

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102412		
法人名	医療法人 敬天会		
事業所名	グループホーム野の実		
所在地	長崎県諫早市多良見町舟津299番地6		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大村湾を一望できる自然豊かな環境の中で静かに流れる時間をゆったりと過ごして頂いている。木の温もりを感じられる建物で、季節を感じられる装飾や、花を飾り、居心地の良い空間作りを行っている。散歩、買い物、外食など外出の機会を設け、職員のアイデアを出しあった行事など生活の中に楽しみを持ってもらっている。職員のスキルアップやマナーの向上に努めご利用者の笑顔と笑いを大切にしながら一人ひとりの意思を尊重したケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石畳の進入路を入ると木造で落ち着いた雰囲気のある当ホームがある。ホームから見える景観もよく、夏場は家族も交えてバーベキューをする機会も設けている。廊下には入居者同士が談話できるスペースを設け、介護の動線にも配慮しながら居心地の良い空間作りを行っている。入居者が最期まで当ホームで暮らせるよう終末期への支援体制を主治医や看護師と密に連携しながら対応がなされている。また、医療連携している看護師から研修を受ける機会を設けるなど、看取りに向けた職員への不安感にも配慮しながら終末期への支援がなされている。リフレッシュ休暇(連続2日の休暇)を設けるなど職場環境にも配慮されている。家族からも大変行きやすい雰囲気があると声が挙がるなど、入居者へ「寄り添う姿勢」を大切にされた支援に努められているホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

北ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念があり、玄関などに貼り出して、実践に向け日々努力している。御家族にも目につくようにしている。	入居者へ寄り添う姿勢を大切にしながら日々の申し送り等を通じて共有し実践に努められている。最近実施されたターミナルケアにおいても実践状況を職員一人ひとりが振り返りながら「寄り添う姿勢」を大切に支援に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、地域行事(夏祭り、みかん収穫祭など)に参加、交流している。	自治会に加入されており、地域の会議や清掃のほか各種の地域行事に参加し地域の一員として交流されている。地域の民生員が立ち寄ることもあり地域の様々な情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議などで民生員の方や、見学者を通じて支援の方法や相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族より提案、意見を頂いた時は、意見を取り入れ実践している。	定期的に運営推進会議が開催されており、入居者家族や市担当者その他、近隣の派出所の方が参加することもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にも参加頂いている。ホームの取り組み等報告し、意見を頂き、協力して頂いている。	市担当者とは運営推進会議を通じて意見交換を行うほか、個別の事例についてもアドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、介助方法、見守りの方法など、「しない」ケアに取り組んでいる。	身体拘束は実施されておらず、日中、玄関への施錠もない。センサー使用の方がいらっしゃるが家族へも同意を得、見守り対応として使用目的も把握されている。職員が虐待防止・身体拘束への研修会に参加する機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を常に頭におきケアしている。入浴時の身体チェックも行っている。声かけの仕方にも、注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度を学んでいる。 御家族との話し合いの中で必要となれば活用できる準備をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関しては、その都度十分な説明を行いご理解頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議の場や面会時など意見、要望を伺い、受けた場合は職員へ周知し、運営に反映させている。	面会の頻度も多く、意見や要望等を聞いている事が窺える。運営推進会議での家族意見を反映し、「野の実たより」を通じて職員紹介を実施する予定である。	家族からも大変行きやすい雰囲気があるとの声が挙がっているので、職員の離職や異動状況等を踏まえ、今後、職員紹介の方法を検討することに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日朝、夕の申し送りなどで意見や提案を聞いている。 申し送り以外でも職員はいつでも言える環境にある。	管理者が日頃から職員から意見や提案など随時聞き取り、業務に反映するよう努められている。リフレッシュ休暇(連続2日の休暇)を設けるなど職場環境にも配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて就業時間の変更や、公休を2連休の日を作ったりしている。 代表者はねぎらいの言葉をかけたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。 外部の研修を受けられるよう計画し実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協会に加入しており、勉強会など積極的に参加している。 他施設より見学がある時も、積極的に意見交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談、聞き取り等を行い、御家族より情報も頂き、御本人に対しては傾聴する姿勢を持ち、本人の思いや不安を受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。 ご家族の悩みや不安を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の思いや悩み、不安をききながら、御本人の様子を伺いながら安心できるようなサービスを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共感的な態度で接し、人生の先輩である事を念頭において信頼関係を築けるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に御本人の日常の様子や気づきを伝える等して共有している。 御本人が落ち着かれている場合など外出など提案したりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の馴染みの美容室など同行支援している。 知人など電話があったり、手紙が届いたりする。	馴染みの美容室へ行く方や訪問美容の利用もなされている。職員と共に絵手紙を作成した事例も窺えた。墓参りなど本人の希望聞いたり、外出や外泊時には家族と協力しながら支援されていることが窺える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を理解し、入居者同士が会話したり作業しやすいように席の配置を工夫したり、職員が間に入る事で入居者同士の関係がうまくいく様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、葉書を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人との会話から情報収集をしたり、御家族からも意見をお尋ねしたり、それぞれに合わせた対応を心掛けている。	個人記録にはケアプランに沿った実施状況が記録され、職員の勤務帯や家族のやりとりについても分かりやすいよう色分けされている。入居者の表情や仕草から思いを汲み取り、本人の思いに寄り添う支援に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た生活歴なども利用し、馴染みある暮らし方が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人、一人の自主性を尊重し、入居者のその日の心身状態など、食事、睡眠、バイタル、表情で把握し、入居者全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人や御家族の要望を訪ねモニタリングによる評価をもとに話し合い、他の職員にも共有し、支援している。	介護計画は定期的に評価、見直しが行なわれており、本人の状態を家族へ説明し、意向を汲むよう努めながら計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に残し、気づき、改善が必要な時には申し送り、伝言ノートを活用して情報共有とともに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族に代わり必要な物を買ったり、気分転換を図り個別でドライブしたり、通院や外出等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に入居者と参加し、楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医は全員事業所の協力医で週一回の往診があり、状態を把握してもらっている。緊急時にも対応できる体制をとっている。	週1回木曜日に協力医の入居者全員への往診がある。他科への受診についても職員が同行されている。受診時にはバイタル表などの本人情報を提供しスムーズな受診となるよう配慮されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日全入居者の状態をFAXを利用して情報提供している。必要に応じて指示があり、適切な受診、看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者と情報交換をし、御家族も同席している。 退院に向けて病院に出向き、御本人の状態など病院関係者と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については主治医の助言を中心に、御家族、職員を交えての話し合いをしている。 終末期に向けてのミーティングも行っている。	終末期においては主治医や看護師と密に連携し段階的な介護計画が立案されている。医療連携している看護師から研修を受ける機会を設けるなど、看取りに向けた職員への不安感にも配慮しながら終末期への支援を対応されていることが窺える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は速やかにその状態を主治医に連絡し、指示をもらうようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回、夜間想定も含めた災害・避難訓練を行っている。 隣接した住宅がない為、地域の消防団との協力体制もある。 火災等を未然に防ぐ対策として、コンセント回りのほこりの掃除等を行っている。	定期的に消防訓練を行い、訓練時の課題についても抽出されている。入居者と職員で水害想定訓練を実施し、地震時の対応についても職員間で勉強会を行っている。地元消防団の協力が得られる体制にある。居室の表札の裏には「済」と表示する事により避難済みと分かるよう工夫されている。	防災マニュアルには訓練をできるだけ写真等で記録しておく旨の記載があるので、訓練実施状況を写真等で残しておくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人、一人にあった声かけを意識し、笑顔での対応に心掛けている。 又、居室へ訪問する際のノックやトイレ介助時の気遣いなどを心掛けている。	基本的に敬語で人生の先輩であることを踏まえた対応に努め入居者への声かけ・対応についてはミーティング等を通じて話しあい、不適切な声かけ・対応があった場合はその都度管理者が個別に指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中でさりげなく思いを聞いたり、質問調にしたり、意思表示が困難な場合は表情などを観察して自己決定ができる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調、感情を考慮しながら出来る限りその方のペースに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師さんに来て頂き、好みの髪型にカットしてもらっている。 自分の洋服を選んだり、化粧品を購入するなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や茶碗拭き等、入居者とできる範囲で一緒に行っている。 誕生日ケーキの飾りつけや、柿の皮むきをして干し柿など風物詩として一緒に作っている。	入居者の嗜好に合わせて、おはぎ、生菓子等のおやつや法人で準備した手作りのおせち料理の提供のほか、花見やランタン祭りの帰りに外食する機会を設けるなど食事が楽しみとなるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録している。個々に合わせて刻み食やとろみをつけたり工夫している。 食事摂取量が少ない方には、ゼリーなどで対応している。水分は必要時、希望時飲水してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。 定期的に歯科医の往診もあり、衛生士の協力のもと口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄が出来る様に支援している。排泄表を活かし、声かけ誘導している。 入居者の習慣、排泄リズムに注視し、プライバシーに配慮した声かけを行っている。	排泄の誘導時には本人に合わせた声かけや、職員間でもその方の情報を共有しながら対応がなされている。パット等の必要性を見極めながら、本人に合わせた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、乳製品、甘酒を取り入れ水分補給を行っている。 ホットパックで腹部を温めたり、みかんの皮ごとゼリーを提供したりしている。体操も取り入れ、それでも難しい時は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、入浴は入居者のタイミングに合わせてゆっくり利用してもらっている。 時間帯の要望がある時は要望通りにする。 季節に合わせ、菖蒲湯、柚子湯を提供している。	入浴日は、ユニット毎に隔日に午前中から設定がなされている。同性の入浴介助を希望する方にも対応するようにしている。入浴を無理強いする事をせず、タイミングや本人の希望を汲み取りながら支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動を促しているが、生活リズムをもたれている方、体調、体力に応じて休息も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルし、いつでも確認できるようにしている。薬の辞典も活用している。 薬剤師も定期的に入居者の体調確認の為、ホームへ来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や、趣味を把握し、昔出来ていたが、今は出来ない事には触れず、今出来る事を見つけ出し、喜びを感じてもらえる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ散歩したり、ドライブや買い物に出かけ気分転換を図っている。 季節毎に外出の機会を設けている。 毎年一度ご家族を招待し、バーベキュー会も開催している。	定期的に外出する計画をし、事前に外出する行き先に応じて職員が見学に行き、食事や排泄への対応状況について把握するよう配慮されていることが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者、御家族の希望に応じてお金を所持して頂き、日用品の購入の際に使われている。 所持困難な方には事務所で小遣いとしてお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人が電話を希望される時は、職員が間に入り、スムーズに会話できる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間、玄関、居室などに季節の花を絶えず飾る等している。金魚も飼っており、入居者の方もエサやりを楽しみにされている。 薪ストーブもあり冬場は焼き芋などをしている。	ホーム内は木造で落ち着いた雰囲気があり、廊下にも入居者同士が談話できるスペースを設け、介護の動線にも配慮した支援がなされている。季節感を採り入れた飾りや、現在はメンテナンスを行う必要があるが共用空間には薪ストーブがあり冬場は焼き芋をして入居者の楽しみに繋げている。ホームから見える景観もよく、夏場は家族も交えてバーベキューをする機会も設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキや中央フロアでは、ゆっくり海や山を眺めながら談話できる。 リビング内でも気の合った入居者同士で過ごせる様、席の配置もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた時計、イス、大切にされてきた物などを持参していただいて安心して過ごせる部屋づくりに努めている。	入居時に本人の使い慣れた箸や食器のほか手まわり品の持ち込みを促している。居室の清潔に努め、入居者と職員と一緒にゴミ捨てを行うこともなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札や、トイレの表札、日めくりカレンダーも手作りで、入居者の方にめくってもらっている。		

自己評価および外部評価結果

南ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念があり玄関などに貼り出し、職員は意識しながら実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも加入しており、地域行事にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や見学の場を通して支援の方法や認知症の人への理解を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での意見・要望は取り入れてサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの状況を報告して市町村担当者よりの問い合わせ等に答えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、介助方法、見守りの方法など身体拘束を「しない」ケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を常に頭におきケアしている。入浴時の身体チェックも行っている。声かけの仕方にも注意している。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度を学んでいる。 御家族との話し合いの中で必要となれば活用できる準備をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関しては、その都度十分な説明を行い ご理解頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を伺い、受けた場合は職員へ周知し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があればいつでも言える環境にある。 申し送り等利用して意見交換も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて就業時間の変更や公休を2連休の日を作ったりしている。 代表者はねぎらいの言葉をかけたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受けられるよう計画し、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協会に加入しており、勉強会など積極的に参加している。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談、聞き取り等を行い、御家族より情報も頂き、御本人に対しては傾聴する姿勢を持ち、本人の思いや不安を受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の悩みや不安を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の思いや悩み、不安をききながら、御本人の様子を伺いながら安心できるようなサービスを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共感的な態度で接し、人生の先輩である事を念頭におき、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に御本人の日常の様子や気づきを伝える等して共有している。 御本人が落ち着かれている場合など外出などの機会を提案したりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	御本人の馴染みの美容室など同行支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話したり作業しやすいように席の配置を工夫したり、職員が間に入る事で入居者同士の関係がうまくいく様努めている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、葉書を頂いたり、時には入院先の病院へ御見舞いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人との会話から思いや希望を察したり、それぞれに合わせた対応を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た生活歴なども活用し、馴染みのある暮らし方が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人、一人の自主性を尊重し、入居者のその日の心身状態など、食事状態、睡眠、バイタル、表情で把握し、入居者全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人や御家族の要望を訪ねモニタリングによる評価をもとに話し合い、他の職員にも共有し、支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に残し、気づき、改善が必要な時は申し送り、伝言ノートを活用して情報共有と共に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族に代わり必要な物を購入したり、気分転換を図る個別でドライブしたり、通院や外出等必要な支援は柔軟に対応している。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に入居者と参加し、楽しむように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医は全員事業所の協力医で週一回の往診があり、状態を把握してもらっている。緊急時にも対応できる体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日全入居者の状態をFAXを利用して情報提供している。必要に応じて指示があり、適切な受診、看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者と情報交換し、御家族も同席している。 退院が近くなると病院に出向き、御本人の状態など病院関係者と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については主治医の助言を中心に、御家族、職員を交えての話し合いをしている。 終末期に向けてのミーティングも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は速やかにその状態を主治医に連絡し、指示をもらうようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回、夜間想定も含めた災害・避難訓練を行っている。 隣接した住宅がない為、地域の消防団との協力体制もある。 火災等を未然に防ぐ対策としては、コンセント回りのほこりの掃除等を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人、一人にあった声かけを意識し、笑顔での対応に心掛けている。 居室へ訪問する際のノックやトイレ介助時の気配りなどを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を利用して自己決定出来るように都度、声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来て頂き、好みの髪型にカットしてもらっている。 自分の洋服を選んだり、化粧品を購入するなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や茶碗拭き等、入居者とできる範囲で一緒に行っている。 誕生日ケーキの飾りつけや、干し柿を作ったりもしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録している。個々に合わせて刻み食やトロミをつけたり工夫している。 汁物などの温度調整もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。 定期的に歯科医の往診もあり、衛生士の協力のもと口腔内の清潔保持に努めている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄が出来る様に支援している。排泄表を活かし、声かけ誘導している。 入居者の習慣、排泄リズムに注視し、プライバシーに配慮した声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、乳製品、甘酒を取り入れたり、ホットパックで腹部を温めたり、みかんの皮ごとゼリーを提供したりしている。体操も取り入れ、それでも難しい時は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、入浴は入居者のタイミングに合わせてゆっくり利用して頂いている。 季節に合わせ、菖蒲湯、柚子湯を提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・体力に応じて休息も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルし、いつでも確認できるようにしている。薬の辞典も活用している。 薬剤師も定期的に入居者の体調確認の為、ホームへ来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や、趣味を把握し、昔出来ていたが、今は出来ない事には触れず、今出来る事を見つけ出し、役割として喜びを感じてもらえる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ散歩したり、ドライブや買い物に出かけ気分転換を図っている。 季節毎に外出の機会を設けている。 毎年一回、御家族を招待し、バーベキュー会を開催している。		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者、御家族の希望に応じてお金を所持して頂いている。</p> <p>所持困難な方には事務所で小遣いとしてお預かりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>御本人が電話を希望される時は、職員が間に入り、スムーズに会話できる様支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は、常に清潔感を意識している。</p> <p>季節の花を絶えず飾っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>デッキや中央フロアや廊下ベンチ等、自由に使えるようにしている。</p> <p>リビング内では気の合った入居者同士で過ごせる様、席の配置もしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた時計、イス、家族写真、大切にされてきた物などを持参して頂いて安心して過ごせる部屋づくりに努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の表札や、トイレの表札を活かしている。写真など入居者の目線の位置に貼り出している。</p> <p>日めくりカレンダーも大きくかかげ入居者の方にめくって頂いている。</p>		